



地域おこし協力タイムス

現在市で活動している地域おこし協力隊の隊員が交替でお届けします。第12回は「観光化推進員（台湾向け交流促進コーディネーター）」の小川ちひろさんです。

ウェブ
Webマガジンで
奥州を紹介します

2度目の岩手の冬。今年は雪が少なく、農作物や各地のイベントに影響が出ていますね。私自身としては、寒さに弱く雪道運転も自信がないのでホッとしつつも、去年毎日目にしていた雪景色が少し恋しくもあります。

さて、「colocal（コロカル）」というwebマガジンをご存知でしょうか。Webマガジンとはインターネット上の雑誌のようなもの。コロカルは「ローカル・地域」をテーマに、全国各地のさまざまな場所・人にスポットを当て、優れた実践や楽しく役立つ情報を届けています。その中の連載「このまちのくらしとけしき」で、毎月テーマに沿って記事を書き、全国に奥州を紹介していくことになりました。

1月のテーマは「お雑煮」。食の匠・若生和江さんに協力をいただき取材をしました。野菜はムロに置いて新鮮さを保たせ、だしは乾物を使うなど、寒冷地域ならではの工夫で、いつもの食材がお正月のごちそうへと大変身。餅文化のある奥州では「大根」がひそかに大事な存在だという事実にもびっくり。



ひきなにしてお雑煮だけではなく、なますにも入る大根は消化を助ける役割があるそうです。

この土地に暮らすことで、一つ一つの日常の背景を深く知ることができ、それを多くの人に発信することにとってもやりがいを感じます。奥州以外のローカルニュースもたくさんありますので、コロカルで全国各地の新しい魅力を発見してみたいかがでしょうか。

■マガジンハウス「コロカル」(<https://colocal.jp/>)



希望の ひかり 第75回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種
最新情報をお届けします

昨年3月に文部科学省は、ILC計画について「正式な学術プロセス（日本学術会議が策定するマスタープランなど）」で議論することが必要との見解を示しました。このほどマスタープランが公表されましたので、今回の希望のひかりではこの内容についてお知らせします。

日本学術会議がマスター プラン2020を公表

1月30日、日本学術会議は「学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）」を公表しました。マスタープランは、大型研究計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的とし、3年ごとに策定され

ます。さまざまな学術分野から提案された計画について、学術的意義や社会的価値などの観点から審査・評価をし、まとめられます。

この中でILC計画はこれまでと同じ「学術大型研究計画」に位置付けられ、より優先順位が高く、特に速やかに推進すべき「重点大型研究計画」には盛り込まれませんでした。しかし、今回初めて「重点大型研究計画」への選考過程での「ヒアリング対象」となりました。

萩生田文科相がマスター プラン公表を踏まえ発言

萩生田光一文科科学大臣は31日の記者会見で、マスタープランの公表に関し次のよう

に発言しました。

● ILC計画は重点大型研究計画に選定されなかった。これは学術界を代表する見地から取りまとめられたものであり、今後の行政側の検討において参考となる。

● 国際プロジェクトであるILC計画は、国内外の幅広い賛同が得られることが必要。マスタープランの結果を踏まえるとともに、欧州素粒子物理戦略での議論も注視しつつ、慎重に検討を進めたい。

● ILC計画は、国内単独の計画ではなく国際プロジェクト。各国の財政的な協力方法の詰めがまだ進んでおらず、この段階で長期のプロジェクトに入らなかったことは、それほど驚くべき結果ではない。

● 国際間の連携を確認しながら、事業の有効性も含めてさまざまな課題があるので、今後しっかりと注視していく。

議論は次のステージへ

今後は、文部科学省における議論・検討や、ヨーロッパの素粒子物理戦略に、ILC計画がどのように盛り込まれるかが注目されます。

中学生が科学体験研修

1月6日から8日にかけて「中学生科学体験研修」が行われました。茨城県つくば市の宇宙航空研究開発機構（JAXA）や高エネルギー加速器研究機構（KEK）など科学の最先端施設に、市内の中学生31人が訪問。27日には、江刺総合支所多目的ホールで研修報告会が開催されました。

科学体験研修は、科学に対する興味関心を高めるほか、将来の市を担うリーダーを育成する目的で市教育委員会が実施しています。報告会では、田面木茂樹教育長が「皆さんはしっかりとメモを取るなど熱心に学んだ。研修を自分のものとし、将来を生きていく糧としてほしい」とあいさつ。参加した中学生からは、訪問した施設での研究内容を班ごとに発表しました。KEKを説明した3班と4班は「超電導の原理」や「素粒子の仕組み」のほか、「研究のデータが薬の開発



訪問先の研究内容を班ごとに発表する参加中学生

に応用されている」といった、KEKと社会との関わりなどについて説明しました。

また、学習内容の説明の後には「好奇心を忘れず、何事にもチャレンジしていきたい」「信念を持って行動し、仲間や自分を信じて生活していきたい」などの感想を話し、参加者全員が研修を振り返りました。



節分も過ぎ、春の気配が感じられるようになりました。皆様いかがお過ごしですか。

1月6日、市民新年交賀会を開催しました。元号が令和となつて初の開催で、参加された多くの市民の皆さんと、新たな年の幕開けを祝いました。また、同日は市勢功労表彰授与式・地域振興功労感謝状贈呈式も開催し、各分野で市勢発展にご尽力いただいた皆さんに、表彰状・感謝状を贈りました。受賞者の皆さんのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

1月17日、仙台市内で開催された、河北文化賞贈呈式に出席しました。同賞は、東北の学術、芸術などの分野で顕著な功績を挙げた団体や個人を顕彰するもので、今回、世界初のブラックホール撮影に成功した国立天文台水沢VL

BI観測所が受賞しました。観測所の前身である緯度観測所が当市に開設されて120周年という節目に偉業を達成されたことは、市民の誇りでもあります。おめでとうございます。

1月21日、スイスで開かれた冬季ユースオリンピック競技大会で、日本女子アイスホッケーチームが優勝し、代表チームの一員として水沢中2年の福田奈生さんも金メダルを手に入れました。今回の経験を生かし、夢のオリンピック出場を目指して、さらなる飛躍を期待しています。

1月22日、新幹線水沢江刺駅の発車メロディーに、市出身の故・大瀧詠一さんの楽曲を導入しようと活動している「大瀧詠一応援団」江刺大瀧詠一顕彰会」をはじめとした市民グループの皆さんが来庁しました。今後の実行委員会組織の設立により、全市的な気運の醸成に期待するとともに、市としても早期実現に向け、協力、応援してまいります。

奥州市長 小沢昌記